

38期 第2回「郷土富士見検定」解説と探訪

水子地区 ～水子から針ヶ谷～

日 時 平成27年10月14日(水) 9時30分～15時 (小雨決行)
集合場所 東武東上線みずほ台駅東口駅前 9時30分集合
参加者 6名

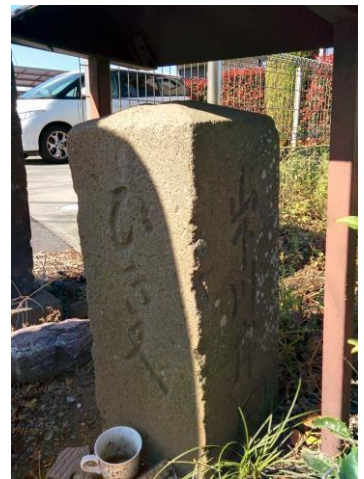
前回と打って変わっての良い天気で多くの参加者を期待していましたが、連絡の不備か少人数での講座となってしまいました。参加者が少ない分、質問への説明が十分できたと思います。

水谷公民館で予定の時間通りに解説講座をして、水子貝塚公園記念館で昼食、大應寺の山門へ、鐘の説明、山田屋の巨大な墓をみて、市の指定文化財「天保の道しるべ」へ、案内版の文字が薄くなっており読みにくい状態です。市内の文化財などの案内版の更新が望まれます。御嶽山大神碑は上り口から草が蔓延り見つけにくくなっていましたが、藪漕ぎをして発見しました。

真光寺では耳垂れ地蔵、鎌倉道を通ってお井戸へ、湧水も豊富で綺麗な水でした。山王坂では延命型の地蔵を拝み栗谷津公園、針ヶ谷氷川神社へ、神山様宅の御岳信仰の塚は自宅の庭に塚があり、先達として参った金比羅さんなどの石碑もありました。最後に近くにある武蔵山長五郎の墓にお参りして、みずほ台のモニュメントに行き解散しました。



巨大な墓



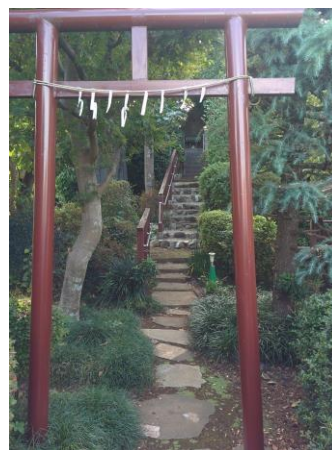
天保の道しるべ



お井戸



鎌倉道案内板



御嶽信仰の塚

NPO法人 富士見市民大学

38期 第2回「郷土富士見検定」解説と探訪

水谷地区 ～水子から針ヶ谷～

市内探訪会は検定問題集で取り上げた市内の主な歴史公園、神社、仏閣、旧跡、会社などを訪ねて、より理解を深めていただくものです。

日 時 平成27年10月14日(水) 9時30分～15時 (小雨決行)
集合場所 東武東上線みずほ台駅東口駅前 9時30分集合
案内担当 富士見市資料館友の会 ふるさと探訪部会

行 程 みずほ台東口モニュメント「瑞光」→並木地蔵→水谷公民館(解説講座会場)→水子貝塚公園(昼食)→大應寺→水宮神社→天保の道しるべ→御嶽山大神碑→眞光寺→石井緑地公園→お井戸→性蓮寺→八幡神社→正綱氷川神社→山王坂地蔵→(別所水神)→栗谷津公園→虚空蔵菩薩(針ヶ谷集合墓地)→針ヶ谷氷川神社→御嶽信仰の塚→みずほ台西口(解散)
約5.5km

解説講座 10時20分～11時30分

昼 食 11時50分～12時30分

参加費 ①資料・保険料 100円(受講生は免除)

その他 ①昼食、飲み物、雨具は各自ご用意ください。
②移動中は各自注意し、安全を心掛けてください。
③行程は変更する場合がありますので、予めご了承ください。

主催 NPO 法人富士見市民大学 郷土富士見検定事務局
(TEL) 049-251-1140 鶴瀬公民館内

市民大学 郷土富士見検定解説講座

〔 水谷地区 〕

1. 水子の起源

諸説あるが、応永年間（1521～1528）室町中期に書かれた『市場の祭文』に水子郷の名が出ているところから、少なくとも600年以上前にすでに水子の地名が存在していたことは確かである。又、一説によると平安中期の10世紀に書かれた「延喜式」にすでに水子郷の名がでているので、これが水谷の水子であるとすれば、更に500年もさかのぼることとなる。

＊延喜式；平安中期の律令の施行細則。律令政治の基本とされたもので、式の集大成。50巻、禁中の年中儀式や制度について記されている。律令；「律」は刑法、「令」は行政法・民法などにあたる。中国歴代王朝の基本法典による中央集権的な国家制度。

水子とは、文政12年（1829）の『遊歴雑記』に水子観音に関する記載があり、「天文6年（1537）以来水子村と呼びしを今はみぞこ村といひならはせり」とする説や水子は「水の處」すなわち水出ずる処といわれ、良い水の出る地を意味し、また大應寺開山のキッカケとなった弘法大師が「此地を水子とす」からともいわれ、これも諸説ある。

2. 水子村から富士見市へ

明治2年（1869）版籍奉還により、川越藩領だった水子・針ヶ谷・大久保・鶴馬・勝瀬の五か村は、そのまま川越藩の管轄下に置かれた。

明治4年（1871）廃藩置県により、埼玉県・入間県が設置され、川越藩は「川越県」となり、さらに「入間県」となった。

明治6年（1873）入間・群馬両県を合併し、「熊谷県」となる。

明治9年（1876）熊谷県を廃し、旧入間県管轄分が「埼玉県」に編入された。明治12年（1879）埼玉県内に九郡が設けられ、「入間郡」となる。明治22年（1889）水子村、針ヶ谷村が合併し、「水谷村」となる。昭和19年（1944）水谷・宗岡・内間木村の三村と志木町が合併して「北足立郡志紀町」となる。

昭和23年（1948）水谷村、志紀町から分離独立し、「北足立郡水谷村」となる。昭和31年（1956）鶴瀬・南畑・水谷の三村が合併「富士見村」となる。昭和39年（1964）町制施行し「富士見町」となる。

昭和47年（1972）市制施行し「富士見市」となる。

昭和53年（1978）7月 区画整理による町名変更；東みずほ台1・2・3丁目、西みずほ台1・2・3丁目、水谷1・2丁目となる。

10月 住所表示変更；水谷東1・2・3丁目となる。

平成6年（1994）住居表示変更；東みずほ台4丁目、貝塚1・2丁目、3丁目となる。

平成7年（1995）区画整理による町名変更；針ヶ谷1・2丁目となる。

以上

市民大学 郷土富士見検定解説講座

水谷東地区について

1. 水子から水谷東への表示変更（別紙1参照） 昭和53年（1978）10月1日に「水谷東1～3丁目」が誕生（広報ふじみ） 昭和47年（1972）4月9日、当地区の公民館が開館し、その名称が水谷東公民館で「水谷東」が初めて使われた。以後この「水谷東」の名称は、小学校や郵便局にも使用されるようになり、昭和53年に水子に変わって正式な住居表示となった。

2. 字名「三丁目」という言葉について

- （1）水谷東の旧住民は古くから「三丁目」と呼んでいた。
- （2）昭和30年代後半から住宅密集地となると、水谷東地区全体を意味するようになった。
- （3）その後、次第に水子内における旧住民が自分達を、新住民と区別する言葉として使用した。
- （4）富士見一番の場末・水害常習地帯と関連させて呼ばれるようになった。

3. 水谷東の生活圈・一体感

- （1）水谷東は当初から志木圏の一環として開発された。
- （2）日常の買物、水道も志木、電話も志木局、学校も初期は大半が志木に越境入学。
- （3）志木とのあらゆる面において大きな格差を身をもって体験。
- （4）富士見市の場合（**辺境意識**）と一体となって住民運動を昂揚させていく必然性が。

4. 柳瀬川の改修工事（別紙2参照）

昔の柳瀬川は複雑に蛇行し、とくに水谷東地区は極度にひどく、ヘアピンカーブのような状況（地図参照）で、昔からしばしば氾濫し被害をもたらしていた。

- （1）大正7年頃（1918）～昭和5年（1930）の改修工事 当時の水谷東は柳瀬川の遊水地帯で、堤防も霞堤といってところどころ故意に築堤しないままのものであった。この改修によって川の水子側に志木分、反対の志木側に富士見分が生ずる結果となった。
- （2）昭和43年（1968）からの改修工事
昭和41年の洪水被害を受け、工事の着工はすみやかなるも完成まで10年以上の歳月を要した。

5. 志木市との境界変更（別紙3参照）

(1) 志木市役所一帯の敷地と境界線

- 一帯は、埋め立てられる前まで旧水谷村の村有地と民有地そして旧新河岸川とその河川敷で沼地であった。
- そのうち国有地7,500m²が、国から昭和41年(1966)に志木・富士見両町に払い下げられた。
- すでに河川敷の占有権と附近の民有地を不動産業者が買占めていたことと、入りくんでいた境界線を真直ぐに改める必要から、両町はその業者に売却してしまった。
- その後業者は、埋立て終了後その土地を売りに出したことから、両町で買戻しの話がでたが、昭和44年(1969)、志木側が富士見分も含めて全部買い戻した。
- 志木庁舎の立っている場所は、殆どが富士見分の土地で庁舎が建った当時、新聞は「隣町に変則市庁舎たつ」と写真入で報道した。
- 志木市は、富士見側に境界変更を申し入れ、城の下と北袋地区の旧新河岸川の志木分と同面積で交換し、昭和46年(1971)に境界変更となった。

(2) 味場地区の境界変更

- 昭和34年(1959) 対岸の味場地区の宅地開発
- 昭和36年(1961) 志木編入運動開発
- 昭和49年(1973) 志木編入の調印式が行われ、編入が決定 当時の新聞は人間が200人以上も住んでいる一地区を無条件で隣接他市に譲り渡すと いうことは、埼玉県下はもとより、全国的にもほとんど例を見ないこととして全国版で大きく報道された。

以上

第2回の水谷地区

◆解説講座

①みずほ台駅

みずほ台駅は昭和2年(1927)から昭和13年(1938)まで仮設ホームが設置され、糞尿の積み下ろし場として使用されました。昭和26年(1951)には、再び仮設ホームが設置されみずほ台信号所として、電車の交換施設が置かれました。このとき「瑞穂がたわわに実ったさま」を連想して「みずほ台信号所」と命名しました。その後、駅開設の事業は紆余曲折を経ながら昭和52年(1977)10月、今の「みずほ台駅」が開設されました。

②みずほ台東口モニュメント「瑞光」 みずほ台駅は昭和52年(1977)10月21日、東武鉄道東上線の駅として開設されました。東口にはモニュメント、名称「瑞光（ずいこう）」が設置されています。金属色の柱と青銅色の球体から構成され、球体はつきることのない生命感を、又、上に伸びる3本の柱は3村の合併による歴史的流れと豊かな市民生活の確立、社会福祉の都市施設の充実及び社会文化の振興を表現しています。〔総合P125－30〕

③並木地蔵 昔からの街道筋にあたるところ。東みずほ台1丁目の並木交差点辻角に建っているのが、並木地蔵と呼ばれ市内にある丸彫り四大地蔵の一です。並木地蔵は地上からの高さ2.58m(うち蔵立1.3m)で、ここに建てられたのは享保8年(1723)です。他の三体は水子の元禄14年(1701)の山王坂地蔵、東石井真光寺の天明元年(1781)の地蔵、鶴馬來迎寺の享保8年(1723)の地蔵があります。お地蔵さんは、四辻や村境などに多く置かれ、悪疫退散(あくえきたいさん)や旅の安全を守り部落内の守護仏として建てられたものです。〔総合P91－61〕

市内の地蔵・石仏は数百基を数えるといわれ、江戸期のものが殆んどです。六地蔵を除く地蔵は77基あるといわれています。地域別では、水子21、鶴馬18、下南畑11、東大久保8、上南畑7、針ヶ谷5、勝瀬4、南畑新田3基です。丸彫り延命型の地蔵で大きなものは、來迎寺境内(鶴馬2丁目)、山室墓地内(諏訪1丁目)、山王坂道辺(水子)、並木交差点(東みずほ台1丁目)、真光寺境内(水子)、天神前交差点(下南畑)、金蔵院境内(上南畑)、道場墓地内(上南畑)、阿蘇神社横(東大久保)、車地蔵(東大久保)、集合墓地の虚空蔵菩薩境内(針ヶ谷1丁目)、興禅寺山門前(下南畑)などがあります。その他、彰義隊残党処刑の供養地蔵尊(下南畑興禅寺境内)、勝軍地蔵が水子東石井と上南畑堂ヶ谷戸にあります。〔2集P23－17〕

④水子貝塚公園 水子貝塚は昭和12年(1937)発見以来、数回の発掘調査によって小規模な貝塚が環状(かんじょう)に分布する縄文時代のムラの跡であることが判明し、その貴重さから昭和44年(1969)に国史跡に指定されました。指定地の面積は

約 39,346 m²（東京ドームの 0.84 倍）です。用地取得は翌年から 20 年の歳月をかけ、平成 3 年（1991）から公園整備を開始しました。平成 6 年（1994）に「水子貝塚公園」としてオープンし、「縄文ふれあい広場」として親しまれています。平成 7 年（1995）には国土交通省から「手づくり郷土賞」を受賞し、平成 19 年（2007）には「日本の歴史公園 100 選」にも選ばれました。〔総合 P105－84〕

水子貝塚公園には資料館・展示館の他、約 6,000 年～5,500 年前の関東平野・奥東京湾の地図などのある説明広場、様々な学習や体験のできる学習広場、展望台、縄文時代の暮らしを再現している復元竪穴住居、貝塚のあった場所を示す貝塚表示、当時の森を復元した縄文の森などがあります。〔総合 P105－85〕

富士見市は武蔵野台地と荒川低地が広がり、縄文時代には低地は海でした。水子貝塚は海の幸を求めて集まった人々が残した貝塚のひとつです。竪穴式住居跡からは貝塚が発見され、最も多いのはヤマトシジミ、次にマガキ、ハマグリ、アサリなどの貝殻です。15 号住居の貝塚の下には、30 代の女性人骨と若い雄犬の骨が埋葬されていました。展示館には住居跡・貝塚・人骨の出土状態をそのままに再現しています。

〔総合 P105－86〕

水子貝塚星空シアターは、平成 8 年 9 月（1996）から毎年開催しています。公園内で涼みながら大型スクリーンで映画を観て楽しいひと時を過ごします。その他の行事や模擬店も出て、多くの市民に親しまれています。〔総合 P153－80〕

水子貝塚公園をスタート・ゴール地点とする「新春縄文マラソン大会」は、富士見市体育協会主催で毎年 1 月の成人の日に行われています。同時に「縄文 5 種競技」が開催され、やり投げ的あて・弓矢的あて・火おこし・宝さがし・丸太引きなどが行われます。当大会の第 1 回は昭和 44 年（1969）「ロード・レース」として開催され、その後「富士見ロード・レース大会」、そして現在の「新春縄文マラソン大会」と名称を変え、平成 27 年（2015）1 月で 45 回（参加者 882 名）を数えます。

〔総合 P155－81〕

昭和 6 年（1931）に水谷尋常高等小学校（現水谷小学校）が編さんした「郷土調査」に、古老からの言い伝えとして「水子八景」があります。

- | | |
|---------------|----------------|
| ①前河岸の帰帆（現水谷東） | ②前沼の落雁（水谷東小そば） |
| ③大應寺の晩鐘 | ④富士山の暮雪 |
| ⑤神井戸の晴嵐 | ⑥真光寺の夜半の月 |
| ⑦松の木坂の一松 | ⑧柳瀬川の富士見橋 |

現在では当時の、前河岸、前沼、富士山は、見ることはできませんが、大應寺の鐘楼 門、神井戸の湧水、松の木坂、真光寺、富士見橋の風景に触れて、昔をしのぶことができます。（注 富士山：富士塚のあった所）〔総合 P85－50〕

⑤大應寺 市内水子の大應寺は、真言宗智山派の寺で、水光山不動院大應寺といい、不動明王が本尊です。開創も八百年は溯ると言われていますが、古い寺歴を伺わせる一つの伝説があります。夜になると池の水面が光りだすので、不思議に思っていると、旅の僧が原因は底にあるというのでさらってみると、一体の仏像を発見しました。村人は旅僧の言葉に従って、仏像を本尊に一寺を建立して、水光山大應寺としました。旅の僧は弘法大師だったといわれています。池の水は涸れましたが、池畔に祀られている琵琶を弾く弁才天は、田中善左エ門「於喜与」と女性の名を刻んだ珍しいものです。〔総合 P41－64〕

水子の水光山大應寺は立派な山門をもつ古寺で、真言宗智山派（総本山は京都東山の智積院）に属しています。創建は不詳ですが室町時代の開山の祖が天文 17 年（1548）没して以来、34 世を数えると言われます。本尊は不動明王です。鐘楼門は享保 4 年（1719）造立されたもので、朱色の回廊の見える上層部が鐘撞堂になっています。近隣にもあまり見かけない鐘楼門で、山岡鉄舟筆「水光山」の額があります。本堂は寛政元年（1789）に建てられたものが平成 21 年（2009）に建て替えられました。

〔総合 P93－66〕

昔（江戸時代）、水子の般若院（現水宮神社）修験者は南畑の十玉院（修験道寺院）の伴として、本山の京都聖護院に登りました。そのとき愛犬を連れて行き、無事に勤めを果たして帰ってきました。その後（又は帰路の途中説あり）、この犬が死ぬと修験の一員として聖護院にまで登った犬として水子字西小原（現東みずほ台 3 丁目）に塚を造営し、厚く葬ったといえます。また、同行した修験の尊祐法印自身も死後その地に葬られ、いつかこの場所は「犬の塚（墓）」と呼ばれるようになったと伝えられています。

現在この墓石は「犬の墓」として大應寺境内（墓地）に移されています。

〔総合 P77－35〕

水子の大應寺の山門は、享保 4 年（1719）に建立された朱塗りの鐘楼門です。底面積のわりに高さがあるので風に弱く、不安定であるため吊鐘で安定を保っていましたが、戦時中に鐘が供出されたため、戦中戦後のしばらくは同じ重さのセメント製の吊鐘で安定をはかっていたといえます。現在の吊鐘は新しく鑄造されたものですが、当時のセメント製の鐘は今でも境内の片隅に保存されています。〔総合 P79－37〕

水子の大應寺にある天保 15 年（1844）建立の「山田屋」と深彫りした墓碑は、総高七尺余り（2m 余り）もあり、このような巨大なものは、市内はもとより近隣でもあまり例のない大きさといわれています。当時は、老中水野忠邦の天保の改革により厳しい統制で倭約を徹底した時代で、墓石は四尺（1.2m 余）限りなどと制限されていた時代の禁令を犯してまで「巨大な墓」を建てた山下河岸回船問屋「山田屋」（田中家）の当時の羽振りが偲ばれます。〔総合 P79－38〕

⑥水宮神社 水子の水宮神社の前身は、摩訶山般若院（まかさんはんにゃいん）と称し、室町時代に京都聖護院を本山とする修験寺として創建されました。明治の初めの神仏分離令により天照大神ほか五柱を奉る水宮神殿となり、明治5年（1872）に社名を水宮神社と改めました。

平成 18 年（2006）には社殿を改築し、社殿前には狛犬ならぬ「狛蛙」が建立されました。これは、水子の地に伝わるカエル伝説を守り、継承していく願いが込められています。カエルは帰るに因んで、交通安全・家内安全の願いが込められています。

〔総合 P99－78〕

水子にあった元柴崎山不動院（今はないが）に蛙の伝説があります。昔、人間のように立って歩きたいと願った蛙が柴崎山不動に願をかけたところ、願いが叶えられ、歩けるようになりました。しかし、目玉がうしろになって不便この上なく、人間のように歩くことができません。そこでやむなく歩くことをあきらめ「元の姿にしてください」と願いましたが、不動明王に「そのような身勝手な願いをきくことはできない」と叱られました。ほとほと困っていると、この主尊である大日如来の庚申さまに助けられ、もとの姿に還ることができました。水子の水宮神社の社殿前に建立された「狛蛙」は、この蛙伝説を守り継承していく願いが込められています。〔総合 P75－29〕

⑦天保の道しるべ 天保 15 年(1844)に、舟運（しゅううん）で賑わった水子の山下河岸船問屋山田佐平治建立の「天保の道標（みちしるべ）」は、川越からひき又（志木市）へ向かう道と、所沢から山下河岸の河岸道の交差点（現、県道ふじみ野朝霞線水子の町屋前の辻）に建てられた道標です。かつての新河岸川舟運の隆盛を今に伝える富士見市に唯一残された貴重な石造物で、昭和 52 年(1977)純粋な道標として市指定文化財になっています。以前は、現在の南、県道の向かいにありましたが、移設されました。四面に「ひき又十五丁、所さわ三里、川ごへ三里半、山下川岸三丁、天保十五甲辰三月吉日願主山田屋佐平治」と刻まれています。〔総合 P89－58〕

新河岸川舟運の市内水子にあった、山下河岸は、享保 18 年（1733）頃の開設と考えられています。河岸場は岡坂橋の上流で木染橋下流右岸に位置し船問屋は、茗荷屋(林家)、山田屋(田中家)の 2 軒があり、所沢・三富・水子からの野菜、穀物、薪などを運んだといえます。当時江戸からは塩、ぬか、灰、下肥を下しました。茗荷屋は初代三十郎から三三郎と七代続いたが、明治末に廃業したと思われます。「山田屋」は友造、友四郎、佐平治の三代続き大應寺の「銭額」「巨大な墓」「天保の道しるべ」などが残されており、当時の羽振りが偲べれます。〔総合 P75－30〕

⑧御嶽山大神碑 水子東石井の神明坂の斜面中腹に「御嶽山大神」の碑があります。木曾御嶽の信仰

で修験者である木内家が先達を務めたといわれています。御嶽山大神碑は、明治 28 年(1875)の造立で寄附者、講中、世話人などの名前が刻まれ、また、傍らには二童子を従えた不動明王像などがあります。

⑨真光寺

水子東石井に台地の崖を背にして建っている朝日山神主院真光寺は当地に土着した木内家祖が木造の不動明王像を本尊として一堂を建立したといわれています。文久元年(1861)以後無住となり、堂宇も荒廃したが、平成6年(1994)3月に再建されました。墓域の一角には天明元年(1781)造立の大きな丸彫地蔵があり「耳だれをなおす地蔵さま」と伝えられており、水子の三地蔵の一つといわれています。また、水子八景に「真光寺の夜半の月」と詠まれたところでもあります。

⑩石井緑地公園 石井緑地公園「どんぐり山」(水子)は、平成11年(1999)3月に開設されました。浦和所沢バイパスより少し入った所にあり、くぬぎ林の根元に草花のキツネノカミソリ(ヒガンバナ科)が8月の半ばころ咲き乱れます。斜面下に数か所の湧き水が小さな池や小川をつくっています。公園の中央には鎌倉時代の名残である「鎌倉道」が東西に走り、その昔人馬が通ったことを偲(しの)ばせる細道です。
〔総合 P25-40〕

狐の剃刀(キツネノカミソリ)は、ヒガンバナ科の多年草で、葉は剃刀に似ており、この名が付けました。晩夏には枯れて、その後に花茎を出して黄赤色のユリに似た6弁の美しい花をつける有毒植物です。市内の石井緑地公園で見ることができます。
〔総合 P15-22〕

⑪お井戸 水子の性蓮寺裏にある、湧水池「おいど」の前を鎌倉古道が通っています。「おいど」は源頼朝により鎌倉幕府が開かれ、鎌倉へ旅行く人馬の疲れをいやす場所として、利用されて来たと思われます。ここを「おいど」というのは、いど(池)が大きい大井戸だから、湧水量が多い多井戸だから、水神を祀っているので、崇めて御井戸だから、などの説があります。〔総合 P39-63〕

弁才天はインドのヒンズウ教の神で、もとは河川の神格化といわれ、農業や食物の豊穰(ほうじょう)の神でした。仏教に採り入れられると、せせらぎの音から心をいやす音楽・学問・芸術・雄弁の神となって、妙音天・美音天などと呼ばれました。奈良時代に仏教と共に中国から伝えられ、鎮護国家・芸術・農業の神として広まりましたが、室町時代ころからは、豊穰は富をもたらすことから、弁財天と書いて七福神の一員に加えられ、江戸時代の流行神となりました。市内には水神33基がのこされていますが、湧水池のかたわらに一番多く9基の弁才天(弁財天)が祀られています。〔総合 P49-81〕

⑫性蓮寺 水子正綱(しょうあみ)の智永山性蓮寺は、千葉県天津小湊にある日蓮宗の大本山誕生寺の末寺です。創建は明応年間(1492~1501)であるといわれています。性蓮寺墓地の一角には、天正5年(1577)に没したと伝えられている後北条氏家臣、上田周防守(うえだすおうのかみ)の五輪塔があります。上田周防守は、難波田氏が戦で討死にしたあとの難波田城主といわれています。〔総合 P93-68〕

⑬八幡神社 八幡神社の祭神は応神天皇(誉田別命)で、創立年代は不詳です。元 J A いるま野水

谷支店裏より、正綱の地に移されたと伝えられています。境内には「白山三所大権現」の石塔があり、宝暦六年(1756) 丙子(ひのえね)十一月吉日 講中十一名と刻まれています。この石塔は白山講の人達による造立とは異なり、白山の白を清廉潔白と解して、今度生まれ変わるときは、身も心も清く生まれてくれるよう祈願して造立したと考えられています。

⑭正綱氷川神社 水子の正綱(しょうあみ)氷川神社は旧水子村の村社で、祭神は須佐之男命・素戔鳴尊(すさのおのみこと)が、農業の守り神としてあがめられています。大宮の氷川神社を分祀(ぶんし)したものです。創立年月は不明ですが、社殿の棟札に弘治元年(1555) 再建の記録があります。水子地区は、荒川・新河岸川をひかえ洪水地帯ゆえに、村民は苦しい時の神だのみで当社を深く崇拝してきています。明治 5 年(1872)、水子地区の村社となりました。神仏分離以降、水子・針ヶ谷・志木の氷川神社を、神職水宮家が奉仕しています。〔総合 P95－72〕

氷川神社は市内に 6 ヶ所あります。上鶴馬氷川神社(諏訪)、下鶴馬氷川神社、水子氷川社、正綱氷川神社、針ヶ谷氷川神社、下南畑氷川神社で、大宮の氷川神社を奉っています。針ヶ谷だけは、志木市の館(たて)氷川神社から祀られたといわれています。〔総合 P99－76〕

⑮山王坂地藏

旧川越道と鎌倉道の交差する山王坂の交差する角に建っているのが山王坂地藏と呼ばれ、水子の丸彫り三地藏、市内の四大地蔵の一つです。

地藏は延命型、元禄 14 年(1701)水子村施主 28 人によって建立されました。傍らには延享 3 年(1746)の青面金剛像の庚申塔があります。

「山王坂」は、水子正綱(しょうあみ)の氷川神社から柳瀬川に架かる富士見橋に向かう坂で、浦和所沢バイパスと交差しています。昔、山王神社があったことから頭文字をとって命名されたといえます。この神社は明治時代に正綱氷川神社に合祀されました。〔総合 P51－87〕

(別所水神) 水子字別所の線路沿いにある阿弥陀堂墓地の西側斜面下に、赤い鳥居と「水神」「湯殿山」と彫られた二基の文字塔が立っています。このあたりが天保年間(1830～1843)に、出羽三山の修験者が諸民(しょみん)の救助を祈願して、みそぎを行ったと伝えられる池の跡があります。今でもわずかの湧き水があり、かつては、うっそうと茂る木立の中に清水をたたえた池がありました。風化が進んでいた明治期の石塔は、湯殿山行辰霊神、天保年間諸民救助、高野辰次郎之行場、と刻まれました。〔総合 P41－66〕

片栗（カタクリ）はユリ科のカタクリ属、富士見市水子に咲く貴重な花となっています。早春を告げる花として、丘の北側の裾などに赤紫色の花をさかせます。根から作られる澱粉（でんぷん）は片栗粉として調理に使われますが、現在はジャガイモ・サツマイモから主につくられています。〔総合 P13－17〕

⑩栗谷津公園 栗谷津公園（針ヶ谷）は、昭和 61 年（1986）3 月に開設されました。水源に俱利伽羅不動明王（くりからふどうみょうおう）の塔を嘉永（かえい）元年（1848）造立した先人の意をついで水源を保護するために作られた公園です。毎分約 380 リットル平成 18 年（2006）11 月調査、市内第一位の湧水量があります。〔総合 P25－41〕

針ヶ谷の栗谷津公園の中に「不動さまの流れ」と呼ばれる水量豊かな湧水があり、次のような伝説が伝えられています。あるとき、一人の若者がこの小川から「泥鰌（どじょう）」を沢山とらえ家に持ち帰って、鍋に入れ煮て食べようとしてしました。しばらくして煮えた頃合いと思い蓋をとって見たところ、鍋の中には泥鰌はなく、ただ血がぐらぐらと煮え返っていたといいます。その後、この小川の泥鰌を捕る者はいなかったと伝えられています。〔総合 P73－28〕

市内で湧き水のある主な公園は、栗谷津公園（針ヶ谷）・石井緑地公園（水子）・谷津の森公園（鶴馬）・親水公園（関沢）・打越公園（東みずほ台）などです。〔総合 P27－43〕

針ヶ谷の栗谷津公園の湧水量は市内最多です。平成 18 年 11 月（2006）調査報告では分当り約 380 リットルを記録しました。これは一般家庭用のバケツ 54 杯にあたります。湧水量の増減は降水量によりますが、雨の後何日くらいで影響があるかは、それまでの雨量によります。一方渇水の年には、湧水量の少ない所ほど影響を受けて、4 分の 1 程度まで減少しますが、これまでに涸れたことはありません。〔総合 P47－78〕

市内には約 30 ケ所の湧き水があり、水は長い時間をかけて地中を移動しています。その間に地熱の影響を受けるので、季節に関係なく水温は 15 度くらいに安定しています。しかし大雨が続いて、湧水量がふえるような時は、外気の影響をうけるようです。〔総合 P47－77〕

市内針ヶ谷の栗谷津公園に、水量豊かな湧き水があります。水源に立っている石造を「栗谷津の不動さん」と呼ばれており、言い伝えによれば昔仏教の代表者、不動明王が、95 種の外道（異教徒）と論争した時、不動明王が智火剣に姿を変えたとき、相手も智火剣に変身したので、不動明王は恐ろしい俱利伽羅竜王（くりからりゅうおう）に化けて、相手の剣を手足で抑えて、飲み込もうとして相手を屈服せしめた。このような伝承を具現化したのが、この俱利伽羅不動明王塔です。嘉永元年（1856）地元有力者と修験者によって造立されました。竜が雨を降らすという信仰もあって、

祈れば雨乞い、治病、除災もかなえてくれるといひます。〔総合 P49－80〕

⑰虚空蔵菩薩 針ヶ谷の共同墓地内にある虚空蔵菩薩は、天の神格化です、広大な知恵と慈悲と福德をもって、衆生の救済に専念します。菩薩が水神として崇拝されるのは、天からの慈悲と福德は、農民にとっては雨だからです。一方ウナギが虚空蔵菩薩の神の使いとも化身とも言われるのは、大雨の後ウナギが田を抜け出して、別の田へ移動する習性から、ウナギが大雨を降らせるとみなされて、雨の神である虚空蔵菩薩と結びつけられて、針ヶ谷では崇められるようになりました。〔総合 P45－74〕

⑱針ヶ谷氷川神社 創立年代は不詳ですが、志木市城山(柏町)の氷川神社の記録に「元禄年間(1688～1704)針ヶ谷村が川越領となり、館村氷川神社を合祀し設立した」とあります。それ以前の針ヶ谷は志木館村に属していました。祭神は素戔鳴尊で、文政 4 年(1821)の氷川大明神の額や嘉永 6 年(1853)の手洗鉢・力石などがあります。

⑲御嶽信仰の塚

針ヶ谷 2 丁目の神山家(通称先達)の庭先に、先祖彦平氏が御嶽講の講員の労力奉仕により築いたという高さ約 4 m 周囲 40m の「御嶽信仰の塚」があります。明治初年に木曾御嶽信仰を広める実明講社を創設し積極的な布教活動により講員は近隣だけではなく、東京大森まで広がったといひます。塚には御嶽神社のほか多くの石碑、手洗石などがあります。

市内針ヶ谷 2 丁目の神山稔家の初代忠兵衛氏の三男で嘉永 3 年(1850)生まれの武蔵山長五郎こと神山芳之助は仕事の傍ら大力を利して相撲の道に入ったといわれています。力士としての武蔵山は明治 16 年(1883)～23 年(1890)頃で序二段までの記録が残されています。芳之助は力士としてよりも力持ちとしての名声が高かったようで、大力ぶりを裏付けるものとして木版画や写真などが残されています。木版画は力士と米俵を 10 俵以上腹の上にのせているもので、約 700 貫(2,625kg)前後はあるというしろものでした。その時の免状であるとされる「大力司取締免状」は、明治 23 年 11 月 3 日、東宮殿下上覧の際のもので、当時の総理大臣黒田清隆らの名前が書かれています。また、この論功が認められ「遊芸人免状鑑札願」を許可されています。〔総合 P159－89〕

⑳みずほ台駅西口 みずほ台駅西口駅前広場中央施設として、シンボルモニュメント、名称「和(わ)」が設置されています。モニュメントは輪と三条の流れるような波長から構成され、人々の親和、協和、融和を基礎にして新しい街造りを表現し「和＝輪」の造形と市内の 3 つの川(荒川、新河岸川、柳瀬川)の治水、又、雲間を昇りくるあかつきの太陽と恩恵を表し無限の発展を象徴しています。〔総合 P127－31〕

水谷地区コース

第4回 郷土富士見検定・実施は

12月6日
です

検定問題解説講座(第20回) 10月14日(水)

会場・水谷公民館講座室

< 探訪コース >

みずほ台駅東口

並木地蔵 → 水谷公民館会場
(解説)

昼食後

水子貝塚公園

大光寺

水宮神社

天保のみちるべ

征歳山大神碑

真光寺

石井緑地

木井戸

マツバ

性蓮寺

八幡神社

正組氷川神社

山王坂地蔵

別所水神

栗谷津公園

虚空蔵菩薩 - 針ヶ谷集合墓地 - 氷川神社 - 新黄信邸の坂 - みずほ台駅西口(解散)

